



自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 8 令和3年3月18日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

立派な花組さんになりました！（花組）

残りの幼稚園生活も指折りになった頃、ふと入園した頃の子もたちのことを思い出しました。お母さんと離れることが悲しくて泣いていた姿や、「先生押しして」と一人では三輪車に乗れなかった姿など、今より少し幼い子どもたちでした。今では、顔つきも体つきもたくましくなり、「先生と一緒に」よりも「友達と一緒に」が楽しくなって、立派な花組さんになったなと頼もしく思います。



2月の末に、子どもたちは大事に育ててきた赤カブの収穫をしました。「おおきなかぶ」のお話を読んでいたこともあり、「1回目は一人で収穫したけど、2回目は友達と2人で力を合わせて収穫するよ！」の言葉にもうなずき、友達と一緒に収穫を楽しみました。次に、「3回目は、先生だけじゃ抜けないなあ。みんなの力が必要なんだ。名前を呼ぶから手伝っておくれ～」と言うと、子どもたちはウキウキした表情になり、自分の名前が呼ばれるのを心待ちにしていました。4～5人で本物のカブを「うんとこしょ、どっこいしょ！」と息を合わせて抜いていきました。絵本とは違い、小さな小さな赤カブでしたが、子どもたちの中にみんなで一緒に収穫して楽しかったという気持ちが残ったら嬉しいなと思っていました。後日、ポリ袋でつくった大きなカブを用意すると、「やってみたい！」と。はじめは友達の名前を呼んで一緒に引っ張って…を繰り返していましたが、絵本の登場人物やお面の話をすると、それぞれに好きな役のお面をつくって身に着けて楽しむようになりました。繰り返し劇遊びをしていると、「ネコはこうやって歩くんだよ。」「わんわん、どうしたわん？」と、次第に役になりきって楽しむ子どもたちの姿も見られました。最後には、みんなでおうちの場に集い、友達の様子を見たり、「うんとこしょ、どっこいしょ」と口ずさんだりしながら自分の出番を待ち、花組全員で大きなかぶの劇遊びを楽しむまでになりました。

個々では飽きたら違う場へ行くこともある子どもたちも、集団になると、自分の番を待ったり友達と一緒に楽しんだりする姿があり、「友達と一緒に」の力のすごさを実感しています。友達と一緒に、笑ったり泣いたり泣いたり…とさまざまな出来事を経験しましたが、きっとその一つ一つが子どもたちの成長の糧になっていることと思います。花組で過ごした日々が、これから大きく育つ力になっていくことを願っています。

（高橋）



お別れ会！大成功～☆（風組）

風組さんは、1月下旬から、グループに分かれて星組さんからウサギのお世話を教えてもらいました。「こめちゃんは、キャベツとか葉っぱが大好きだよ。」「うちはがんげきでとるんよ。」と優しく丁寧に教えてくれる星組さん。そんな星組さんの姿を見て、帰りの会では「星組さんが優しくかった。」「星組さんかっこよかった。」とみんなに伝える風組さん。しっかり引き継ぎをしてもらい、少しずつ、「星組になるんだ！」と実感が湧いてきたようです。星組さんと一緒に過ごせる日にちをみんな確認し、「何か風組で星組さんにできないかな？」と尋ねると「プレゼント渡そうよ！」「手紙書くのは？」など考える子どもたち。保育者が「プレゼントいいね。1年生になるから、お勉強で使う鉛筆立ては？」と尋ねると、さっそく「どんな風につくる？」とA君。附属幼稚園伝統の鉛筆立てを見せながら、「こんなのはどうかな？」と伝えるとみんな笑顔で「いいね、いいね！」と頷きました。「秘密にして作ることにしようね。」とBちゃん。「星組さんのプレゼント作戦」だー！とはりきる子どもたち。それから、コツコツと完成に向けて作っていきました。瓶に紙粘土をつけ、ビーズで飾り付け、乾いたら色を塗り、ニスを塗り、メッセージカードを作り、ラッピングをしようやく完成です。星組さんには内緒ということもあり、作る時もプレゼントを置いておくのも心配な風組さん。「先生、カーテンしなくて大丈夫かな？」「先生、さっき星組さんが部屋見に来たから、黒い布かけとこう。」とソワソワしていました。



お別れ会の日が近づくと、どんな風に会を進めるかも子どもたちと考えました。そして、遊戯室をどんな風に飾り付けするか話し合い、少しずつ飾りを増やして準備していきました。

お別れ会当日、朝から遊戯室の飾りつけを風組全体でして、司会の練習や招待する練習なども行い準備万端！星組さんが入場すると、星組さんが照れながらも嬉しそうに入場する姿を見て、風組の子どもたちも嬉しそうに拍手していました。星組さんが喜んでくれ、プレゼントも渡せ、「ありがとう」の感謝の気持ちも伝えることができ、大成功！とても素敵な時間となりました。

一つの目的に向かって、風組みんなで取り組めたこと、星組さんのためにも思い、考えたり作ったりしたこの過程が、とても大事だと思えます。その過程があったから、子どもたちの満足感や自信につながったのだらうと思いました。風組さん、大きくなりましたね。立派な星組さんを見習って、素敵な星組さんに続いてくれると思います。

「星組おめでとうって入れたい。」「星組だから、星組の部分は星の形にしたい。」「じゃあ、おめでとうをハートにするのは？」「桜の木と花びらを作りたい。」「いろいろな色の花丸を入れたい。」など、いろいろなアイデアが出て、次々に決まっていきました。また、「星組さんでもがんばってね。」「風組、花組さんに優しくしてね。」など、次の星組さんにかけて言葉なども考えていました。次の日には登園した子から、文字や花丸をかいて飾りを作りました。お別れ会の後には、「風組さんがプレゼントをくれたお礼に、もっと飾りをつけたい。」「風組さんが輪っかの飾りを作ってくれたから、自分たちも作って飾りたい。」などと、風組に感謝の気持ちを伝えたい、喜んでもらいたいという思いが高まったようです。

また、保育月刊誌にはがきががついていたので、お家の方にお手紙を書くことにしました。子どもたちは、「毎日お弁当作ってくれてありがとう。」「いつもありがとう。大好きだよ。」「送り迎えありがとう。」などとお家の方への感謝の気持ちを表現していました。言葉で書いた後も、「ハートをつけてかわいくするんだ。」「お弁当の絵を描く。」など一人ひとりが思い思いの手紙を書いていた。子どもたちが一生懸命お手紙を書く様子から、(普段は照れくさくてなかなか直接言えませんが)お家の方への感謝の気持ちでいっぱいなのだ伝わってきて、微笑ましく思いました。

卒業式では、みんなで意見を出し合っつった「お別れの言葉」を言います。予想以上に子どもたちから多くの思い出や頑張ったことが出てきたので、たくさんの言葉を覚えられるのか？と不安もありました。しかし、「覚えてかな？ 少しずつ隠しながら練習しよっか。」と、お別れの言葉を半分隠して呼びかけをして見ると……なんと覚えているではありませんか！「もっと隠してもいいよ。」「目つぶっても言えるもんね。」と自信いっぱいの子もたち。子どもたちの力は無限の可能性を秘めていて、ときには予想していた以上の力を発揮するのだなと感じました。

秋に植えたチューリップが芽を出したと思えば、あっという間に背が高くなりました。子どもたちは、チューリップの成長を喜び、花を咲かせるのを楽しみにしているようです。4月には、みんなの小学校入学をお祝いするかのよう、立派な花を咲かせるでしょう。幼稚園での楽しかったこと、全力で遊んだこと、いろいろな発見をしたことを心の栄養にして、これからも前向きに、いろいろなことに挑戦してほしいです。

そして、一人ひとりが自分色の花を立派に咲かせることを願っています。ご卒業おめでとうございます。

（松村佳）



自分色の花が咲きますように（星組）

今までに撮った写真を見返すと、「大きくなったなあ。」「あれも、これもできるようになったなあ。」「がんばったなあ。」と子どもたちの成長をたくさん感じて嬉しさいっぱいな反面、子どもたちとお別れの日が近づいているんだなあとしみじみ感じて寂しさいっぱいです。



卒業に向けて、来年の星組さんを迎える壁面をみんなで考えました。

緑の葉やつぼみが開き始めた木花のように、子どもたちも春の訪れに心を弾ませながら、日に日に大きくなり、進級や進学を楽しみにしていることと思います。このさくらんぼを通じて、たくさん遊んで育っていく様子を皆様にお伝えできていたなら幸いです。一年間、ありがとうございました。

